

市民が集まり、憩い、楽しめる緑豊かな場所にいたしましょう



森の中の高知駅



高知を愛する皆様へ（令和3年1月号）

「お知らせ」令和3年1月1日

新年お目出度ございます。とはいえ、新型コロナのせいで目出度さも中以下でしょうか。これからの活動予定をご案内いたします。

1月17日（日）09:00～10:30 南口電停脇の「みんなの庭」の手入れをいたしましょう。時節柄しっかり着込んで、マスクも忘れずの軽作業になると思います。

＜2月の共同活動日は14日（日）、3月も14日（日）を予定しております。＞

○トピックス：

—12月13日（日）薄日ながらもまずまずの温かさに恵まれ、南口電停横「みんなの庭」の草取りをいたしました（写真左下）。女性軍はとくに丁寧で、いつも感心しています。お蔭様ですっかりきれいになりました（写真右下）。おみやげに無農薬レモンを各自2個ずつ。



ほかの写真もあります（次ページ）

・・・・・・・・・・続きは次ページをご覧ください・・・・・・・・・・

駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え（花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など）をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥ 幹事連絡先：〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11
中田昌志 携帯電話：090-8849-3651 E-mail：m.nakata1941@gmail.com
公文敏雄 携帯電話：090-7016-3743 E-mail：kumont2@yahoo.co.jp
ホームページ：<http://mori-kochi-eki.jimdo.com/>

取引銀行：四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 代表中田昌志」名義 普通 0709695



Kさんが持ち寄ってくださった花キャベツ



南国土佐は12月も紅葉が(南口旅広場の3志士像前)

緑のまちづくりを考える(44) -お知らせ令和3年1月号コラム

「チョイ農」は楽しい 一花や野菜を育てて幸せになろう

高知駅の周りで花や木を育てている「森の中の高知駅」のボランティア仲間は、老若男女を問わず皆とても元気です。本格的な農作業ならば苦勞も多いと思いますが、おしゃべりもまじえた、ほんの土いじり程度の「チョイ農」は、日常を離れたひとときが楽しめ、知らぬ間に時が過ぎます。まるで、子供のころの砂遊びのように。

小さな子が真剣に土や砂で遊ぶのは本能ではないかという人がいます。ヒトの身体は食べ物の栄養素で作られます。そして、食べ物はもともと、土から育った植物やそれを食べた動物です。こうしてヒトの身体は大地とつながっておりますから、土や砂は子供たちにとって自分のふるさとのようなものです。親しんで当然というわけです。

私が子供のころは、市内の家の小さな裏庭が菜園だったし、近所に田んぼや畑や小川があり、いろんな生き物がいました。「そんな昔のはなし」と笑われるかもしれませんが、近年、家庭菜園、学童菜園、市民菜園、農業体験、農村移住などの言葉をしばしば目にするようになってきました。著名な景観設計家である進士五十八(しんじ いそや)氏(福井県立大学学長、東京農業大学元学長)が提唱し、手掛けてもいる「都市の農村化」、「農のある暮らし」、「共生のまちづくり」が注目され、問い合わせや相談が増えているそうです。

高度成長期には、「オープンスペース・緑地はムダ、都市は建造物で埋められて当然」という、偏った発想がはびこっていました。その結果、大地と切り離された人工的な建物に囲まれ、動物園の檻の中のような生活環境で暮らす都市住民の間で、心身の病気、犯罪、虐待、異常行動など(いわゆる「都市病理」)が、今も増え続けているといわれます。高知市は、そんな大都市の真似をした三流・四流都市を作るのではなく、地域都市らしい魅力を打ち出したまちづくりへの転換をはたしたいものです。

おわり